

タカセガイ中間育成礁管理技術指導（恩納村）

担当普及員 平手 康 市

1. 課題名
タカセガイ中間育成礁管理技術指導

2. 現状（概要等）

平成6年度から7年度にかけて沿岸漁場整備開発事業により、恩納村屋嘉田潟原地先にタカセガイ中間育成礁（53基）が設置された。この中間育成礁は研水産試験場によって研究されたタカセガイの中間育成技術を導入して造成された。

3. 目的

タカセガイ中間育成礁の管理技術、タカセガイ種苗の成長量、歩留まりの調査を恩納村漁協貝類生産部会に指導した。

4. 協力者

恩納村漁協 比嘉 義 視
恩納村漁協 貝類生産部会
JICA研修員 高橋、岡本

5. 活動方法

平成6年度に設置完了した29基に、県栽培漁業センターから供給されたタカセガイ種苗（平均殻

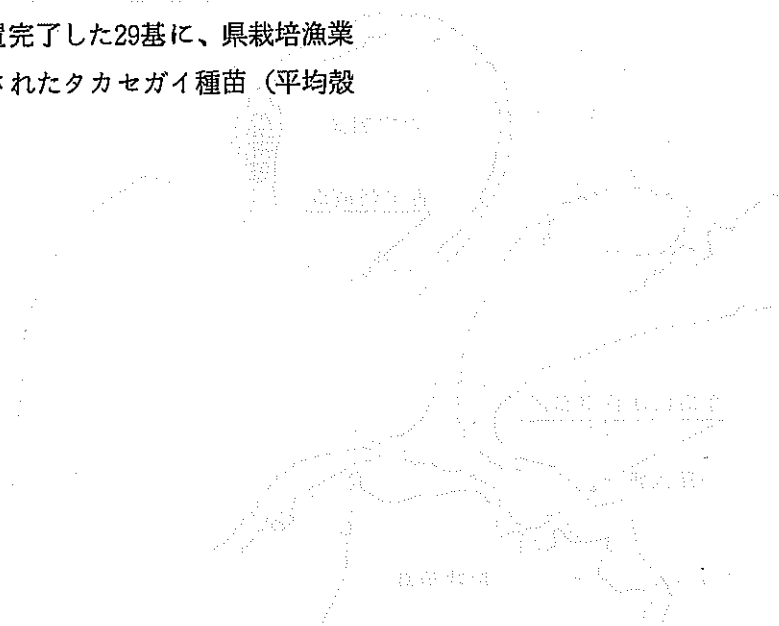
径、5.9mm）約10万個を放流した。その後、6月、8月、10月に成長量調査を行い、10月に中間育成を終了し、種苗の取り上げを行った。

6. 結果

10月の取り上げ時に中間育成種苗（平均殻径、29.4mm）約3万個を得た。また、歩留まりは約30%で、中間育成礁への放流時期が遅れたことと、大型の種苗が中間育成礁の外に移動していることが確認されたことを考慮すれば実際の歩留まりおよび成長量は今回の結果をさらに上回る事は確実に、現在、標識放流法によって脱出群の追跡を行っている。

7. 次年度への展開

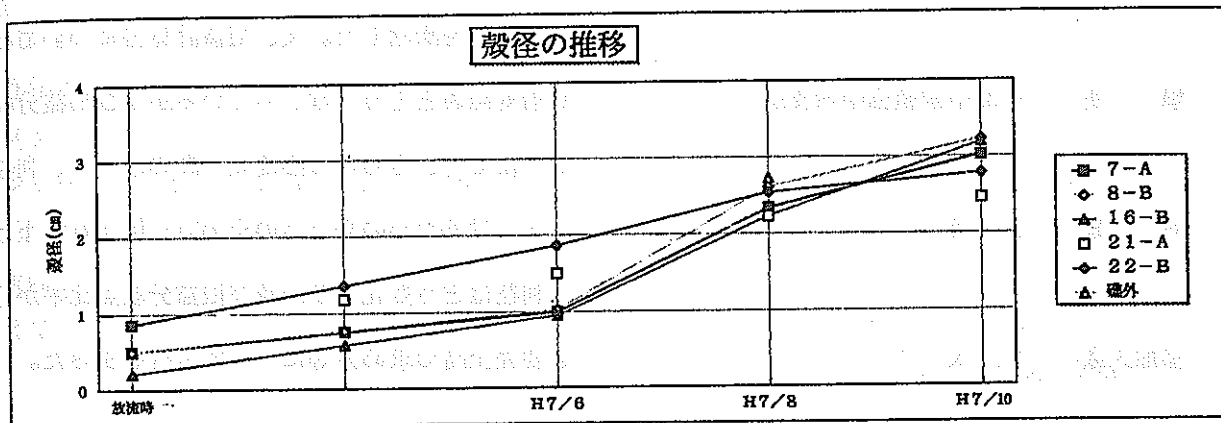
今回の結果は、あくまで単年度の結果である。従って、引き続き同様の指導を行い継続して同じ結果が得られるのかを確認する必要がある。



恩納地区タカセガイ中間育成礁

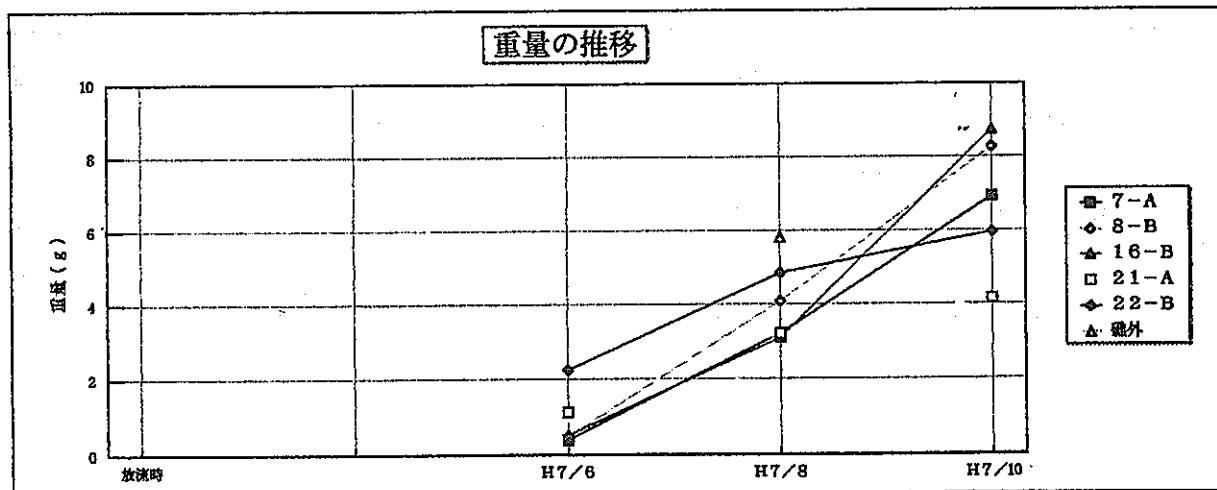
サンプリング情報

礁No	放流時測定値 (n=50)		平成7年6月測定値 (n=30)		平成7年8月測定値 (n=30)		平成7年10月測定値 (n=30)		備考
	平均殻径 (cm)	標準偏差	平均殻径 (cm)	標準偏差	平均殻径 (cm)	標準偏差	平均殻径 (cm)	標準偏差	
7-A	0.50	1.20	1.00	0.07	2.33	0.15	3.02	0.13	
8-B	0.50	1.20	1.03	0.15	2.61	0.17	3.23	0.15	
16-B	0.21	0.68	0.95	0.63	2.23	0.28	3.19	0.28	
21-A	0.86	3.01	1.49	0.61	2.22	0.16	2.46	0.20	
22-B	0.86	3.01	1.86	0.80	2.53	0.22	2.78	0.11	
礁外	-	-	-	-	2.72	0.18	-	-	礁から出た群



重量の推移

礁No	放流時測定値 (n=50)		平成7年6月測定値 (n=30)		平成7年8月測定値 (n=30)		平成7年10月測定値 (n=30)		備考
	平均重量 (g)	標準偏差	平均重量 (g)	標準偏差	平均重量 (g)	標準偏差	平均重量 (g)	標準偏差	
7-A	-	-	0.40	0.08	3.24	0.65	6.93	0.95	
8-B	-	-	0.46	0.14	4.09	0.91	8.27	1.29	
16-B	-	-	0.51	0.46	3.11	1.37	8.74	2.76	
21-A	-	-	1.12	0.30	3.22	0.73	4.15	1.05	
22-B	-	-	2.25	0.91	4.85	1.18	5.95	0.75	
礁外	-	-	-	-	5.82	1.15	-	-	礁から出た群



生残率

	放流個体数	取上げ個体数	生残率
7-A	3,000	384	12.8%
8-B	3,000	115	3.8%
16-B	6,000	209	3.5%
21-A	1,300	764	58.8%
22-B	1,300	427	32.8%
全体	総放流個体数 102,380	総取上げ個体数 30,380	29.7%